

「ねこカル」

かみむらあき

第一話 星

——ねえ、流れ星ってどんななの？天の川ってそんなに星がたくさんあるの？——

学校のベルが鳴る。

給食の時間。

内野心は給食を受け取り、席につく。

みんなで『いただきます』の挨拶をしてからいただきますとすると、横の席から皿が伸びてきた。

「私、人参ダメなんだよね」

そう言っつて、人参を心の皿に盛る詩音。

「体に良くないよ」

と心は言うが、それほどの拒否はしない。なされるがままで。

それを見ていた、路菜が割って入る。

「そうだよ。詩音、ちゃんと食べないと」

路菜は言われなければ、まだ小学生かと勘違いされる幼児体型だ。

「給食のおばさんが、栄養バランスを考えて作ってくれてるんだから」

路菜その姿形に似合わずけっこうしっかりしている。

それに引き換え、詩音は、

「私、ピーマンもだめー」

好き嫌いが多く、面倒くさがりだ。

「あ！無視した」

路菜はふくれる。

「だって嫌いなんだもん」

「まあ、僕は人参もピーマンも嫌いじゃないし……」

心が仲裁に入る。

「えへへ」

詩音も満足げだ。

「甘やかしちゃダメ！」

「どうしたの〜？」

声をかけたのは涼葉と碧。

「ねえ、聞いてよー、好き嫌いはダメだよね？」

路菜が質問する。

「うん、まあ」

二人は答える。

「ほらー！だから……って！！」

いつの間にやら心はペロリと給食を完食していた。

「ごちそうさま。それじゃ、僕は図書室に用事があるから」

「あ、待って！」

路菜は慌てる。

「図書室で待っているから。ごゆっくり。よく噛んでね」

図書室。

まばらにひとがいる。

本を探す人、パラパラとページをめくるひと、カードを使って借りるひと。

「あ、いた！」

路菜が心を見つけると叫ぶ。

「やっときたね」

「こんなに借りるの？」

「ホント、すごい量」

碧が驚く。

「まあね。でも探しているのはなかったよ。誰かが借りてたみたい」

「何を借りたかったの？」

詩音が好奇心で目を輝かせ質問する。

「星についての本なんだけど」

「星について？」

のんびり屋の涼葉が尋ねる。

「ちよつと興味があつてね。しようがないから、帰りに近くの図書館に寄ろうかな。今夜はちよつど晴れだし、良い星空になると思うしね」

「あれ？でも図書館じゃ、図書カード必要だよね？」

碧が質問する。

「大丈夫。持っているよ」

ポケットからカードを取り出し、ひらひらさせる。

夜。

自宅。

路菜、涼葉、詩音、碧は親元を離れ、一軒家を借りて暮らしている。

炊事、掃除、洗濯は各自ローテーションを組んでこなしている（とは言ってもほぼ全て路菜がこなしているのだが）。

親がいないわけではないが、とある理由で四人が一緒に住むことになった。

涼葉が寝る前の歯磨きをしている。
ふと外に目をやり、つぶやく。

「星がきれいだな〜……」

もう眠くてまぶたを閉じそうだ。

それでも空を眺めると、次第に暗くなっていくのがわかる。
すると、部屋から碧が出てきて叫んだ。

「大変！空から星がなくなっている！」

「え〜、うそ〜」

「出動よ！」

「眠いよ〜」

「もう、ほら！」

碧が涼葉の背中を押す。路菜と詩音も起こす。

屋外。

とあるビルの一角で虫とり網のようなものを振り回しているひとがいる。
顔にはキツネのお面をして、目元は見えない。

「よし、だいぶ取れたな」

お面をした男はつぶやく。

網には星がたくさんつまっていた。

「ちよつと待った！」

現れたのは詩音、涼葉、路菜、碧の四人。

なぜかネコ耳をつけ、しっぽまでつけている。

詩音が隣にいる路菜に耳打ちする。

「なんでネコ耳なの？」

「知らないわよ。先生の趣味なんじゃないの？」

そんな話をしているうちにキツネ男は逃走しようとする。

それを見た涼葉は逃すまいと走りだす。

涼葉の俊足に追い付かれ、キツネ男の持つ虫とり網のようなものをつかむ。

キツネ男は無理やり離そうとすると、網が破れ、星がこぼれ落ちる。

そのまま、キツネ男は逃げ去ってしまった。

「逃げられたか〜」

涼葉が悔しがる。

「大丈夫？」

「大丈夫。なんともないよ〜」

詩音が心配するが、涼葉はにっこり返す。

「それより、星をたくさん落としていったから、空に返そう」

「そうね」

四人が星を拾い始めると、碧はカードを見つける。

「……図書カード。なんでこんなところに？」

裏を見たが、名前も書かれていなかった。

その頃、キツネ男は……。

「なんとか逃げ切れましたね」

息が荒い。

「星を落としたのもありますけど、このくらいあれば大丈夫ですか、教授？」

「うむ、そうだな、これで助かったよ」

「なら良かった」

キツネのお面を取ると、内野心の顔が現れた。

——さあ、これが星空だよ。ちょっと予定が狂って、星数は少ないけどね——

——わあ、すごいや。きれいだなあ。あ、流れ星も！——